
魔鬼 改

疾風 式式

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔鬼 改

【Nコード】

N8819Z

【作者名】

疾風 式式

【あらすじ】

ざつと内容説明（もしかすると変更あり）

ある者はインターネットのサイトで、ある者は城内or訓練場の噂、

ある者は本の とある一頁、ある者は宝の地図（？）

ある者は失踪者を最後に見た人物から

不思議な館の話を聞き

館に不法侵入した 組のパーティ達

最初は軽い遊び心で 館内部を探検していたが

不気味な化け物（怪物）等と遭遇し

戦い、逃亡し、隠れる

外部との通信や連絡…無線の取れないまま

一人また一人と力尽きていく中

何とか他のパーティと協力して

脱出を目指していくが……………

魔鬼（登場人物）

- 1、初期グループメンバー
- 2、大まかな種族（ / ）
- 3、職業
- 4、館に来た理由

虎影・白狼・天狼・猛虎

人間：

普通の高校生不良グループ

- ・クラス内での噂話を聞いて
- ・先に消えた優等生グループを探す為

フィル・ルナ・レン・ユウ

獣人（魔物）：

砦を守る一般兵

- ・本家の人から聞いた噂話
- ・好奇心

ライラ・ケルベロス・セリシア・カリーナ

馬鹿4人組の教官、上官

魔物：

- ・馬鹿四人組の話

零式・クログネ・暴虎・牙狼

雨宿りの旅人

人間…

・雨宿り

俊一・霧衛・琴乃・翡翠

兄妹

人間…

・近所の暇潰し探検

大和・飛翔・夜桜・賢狼

軍隊

人間…

・逃亡したテロリストの追跡

クラッド・アーリヤ・ロジーナ・ミハエル

テロリスト

人間…

・軍隊からの逃亡

白零・黒零・シロガネ・斬鬼

犯罪者達

強化（改造）人間…

・行動本部拠点にしようとする侵入

竹虎・軌狼・琥珀・狼夜

普通の高校生優等生グループ

人間…

・怪物の撮影確認

フォレス・ルージェ・リィーア・ヴァン

警察官

人間&魔物…

・行方不明者の搜索

リヨウ、ルイ、ライト、カリン

警察官

人間&魔物…

・行方不明警官の搜索

古式、クロノ、カルロス、ジョン

傭兵

人間&魔物…

・ギルドの失踪者搜索の掲示板を見て

友哉、雅人、哲平、良介、紅葉、美月、誠、千早

私立柏紅葉南高校グループ

人間…

・肝試し

魔鬼（各グループが館に到着するまでの話）（前半）

虎影「おーい、白狼琥珀 ハクロウ 見なかったかー？」

俺の名は刻命虎影 トヲカゲ

武蔵谷川高等学校の2年だ

性別は女、最近の趣味はパンチングマシンで
最高記録を叩き出す事だ。

白狼「うんにゃ？ 見てねえが？ 男にNTRれたんじゃないの？」
虎影「お、おい……え、縁起でもねえこと言うなよ……ふ、ふふ不安になるだろ?!」

白狼「『最近、虎影が私と夜【自己規制】してくれない……男、作っちゃえ!!』」

虎影「や、やややめろよ!!」

此奴は白狼

俺と同じ武蔵谷川高等学校2年だ

一年の頃は色々な意味で好敵手的な存在だったが
2年になってからは、親友とも呼べるような仲間となった

性別は俺と同じ女で趣味は確か…タップダンス？ 上級生に喧嘩を
売ること…？

あれ…？ レズビアンの道に入って見るだっけか？

天狼「つーか、出席表見るよ…一発で分かるぞ」

猛虎「テムエ……姐御に何て口の聞き方しやがる…？」

白狼の隣でヤレヤレと首を振っているのが天狼 テンロウ

天狼の隣で半ギレ状態、殺気が滲み出ているのが猛虎 モウコ である。

天狼「あ？ なんだ？ 文句あるのか？ 殺ったるぞ、ゴラ？」
猛虎「上等だ オラッ！！」

虎影「猛虎その辺にしておけ。サンキュ天狼。」

毎度思うが…この二人は、もう少し仲良くした方が良さと思う
きつと仲良くなれば俺等のようになれると思うのだが……

白狼「ふふふっ……」

虎影「どうした？ 白狼？」

急に白狼が笑い出した。

白狼「いや…な？ 何か昔の自分等を思い出してな？」

虎影「あー……納得。」

白狼「で？ 琥珀は？」

虎影「……15日前程から居ないな……。」

白狼「優等生が15日もか？ 内申点に響くだろ…見せてみる。」

俺の言うことが信じられないと言うように

白狼は出席表を覗き込んで来た。

俺は、この時あることに気がついた……

奴等も居ない…猛虎と天狼を抑える二人も居ないことに……

虎影「猛虎、天狼！ 竹虎と軌狼は？」

二人「……？」

二人ともお互いに顔を見合わせ

『そう言えば……居ない』と言う顔をしている……

猛虎「……………そう言えば…いつもなら姐御に止められる前に 俺の事を制止するはず…」

天狼「言われてみれば…いつもなら『この馬鹿が、いつもすまない』とか言ってる」

互いに謝るのに……………」

案の定だ……………完璧に竹虎タケトラと軌狼（キロウ）の事

完璧に忘れて居やがった……………お前等なあ……………」

今になって、琥珀コハクと狼夜（ロウヤ）の苦勞が分かったような気がする……………」

帰ってきたら労ってやらないとな。

因みに、竹虎は猛虎の抑え役で 大勢で喧嘩する時は戦力になる表情は硬いが良い奴だ。

軌狼は……………知らん。天狼の抑え役のようだが……………」

白狼「こりゃ相当おかしいな……………」

虎影「どうした？」

白狼「琥珀の他にも、竹虎や狼夜や軌狼も同じ日を堺に休んでいるぞ……………」

3人『なん……………だと……………』

白狼を除く全員がその場で固まった

白狼「天狼と猛虎はともかく…出席表見た虎影が何故、知らない？」

虎影「……………なんででしょう？」

白狼「まあ、良い……………取りあえず4人の情報収集でもするか

厄介事に巻き込まれてなければ良いが……………NTRれたり……………
チラッ

虎影「チラ見しながら、言うな！！ 不安になるじゃねえか！！」

白狼「さてと、じゃあやるか……………NTRれる前に……………」
チラッ

白狼「最近、クレージュ南にある館に男6人と女4人の男女が入って行き出てこなかったと言う情報があった。」
3人「!!!」

この情報を聞いた瞬間

全員が固まった。

女4人の情報で固まったのも勿論だが

クレージュの南の館と言ったら、

前に琥珀が幽霊見たさに探検してみたいと

カメラ片手に駄々をこねた場所であった

因みに今 俺等が住んでいる場所がクレージュなので

近所と言っても他言ではない

虎影「じゃあ、琥珀はそこに…?」

白狼「恐ろくな。映像も見るか?」

虎影「!」

俺は息を飲む…そこには琥珀達が映っていた

正直 顔の方はボヤけているので、絶対とは言えないが…

明らかに琥珀らしき人物の後ろには仕込み刀を持ち歩いている人物が居る

さらに、琥珀らしき人物も館に入る瞬間に片手にビデオカメラを持っている

うん…絶対にコレ琥珀だ。間違いない…

虎影「でも、どうやってサボる? このままじゃ進級出来ないぞ?」

白狼「No problem」

猛虎「…は?」

白狼「訳：問題ない」

先公「おい、お前等とつくに下校時刻を過ぎているぞ。」

天狼「先公！ 明日から、一ヶ月程公欠するぜ。」
先公「はあ？ そんな事許されると思「はい。」……なんだこれは？ つ！！」

白狼が何かポケットから取り出し
先公に見せつけた。

すると見る見る先公の顔が青くなって行った。

白狼「せんせー教員だよね…？ こんなトコ入っても良いのかなー？

校長にチクツろかなー？」

先公「ぐっ……………。分かった。公欠な…。」

白狼「どうもー。」

猛虎「なあ、何を見せたんだ？ 後、賢狼ってどんな奴なんだ？」

天狼「さあ？ 知らないほうが良い。賢狼は賢狼だ。」

白狼「じゃあ、俺等はコツチだから。」

虎影「応！ また明日“クレージユ南館前”でな！！」

こうして俺等は先公を脅し

一ヶ月と言う休みを貰い

明日に向けて確実に準備をした

猛虎「あ、姐御 おはようございます。」

虎影「おはよう 猛虎。白狼と天狼は？」

猛虎「中庭に居ます。入りましょう。」

門を潜った瞬間の事だった。

何か背筋が凍るような寒気が全身を襲った

虎影「つ…………！！」ブルブル

猛虎「どうか したんですか？」
虎影「何でも無い……行こう。」

中庭では二人が入口前で
館を見上げていた

白狼「おっ！ 虎影らしい虎の様な猛々しい戦闘服だな」

虎影「白狼も、白狼らしい狼の様なスラツとした戦闘服だな!!」

天狼「はいはい。それじゃあ、入りますよ？」

猛虎「ヒヤッハー!! 一番乗り!!」

虎影「あ、こら！ 待て!!」

こうして俺等は館内に潜入した。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

フィル「最近、敵の攻撃が弱ってきてるな。フォールド城陥落も  
もうじきかな」

私は午後の小訓練をサボりながら  
黒い煙を上げているフォールド城下町を見た

私の名はフィル  
ワールド攻略前線の兵士の一人で  
種族はワーウルフで女です

フィル「あーあー…暇だなあー…そうだ。この前に見た街に行こう  
!！」

私は立ち上がり

くるっとまわり、完璧な変装をした。

変装と言っても…まあ、ただ単に頭の上に飛び出ている耳と  
腰の当たりに生えている尻尾を布で覆って隠しただけけど…

でも これだけをやるだけで、町に居る人間達の反応は  
随分コロツと変わるものだ

本当に人間よりの魔物で良かったと思う

本当は人間に産まれたかったけど…この体で生まれてっちゃったん  
だから

仕方のないことだけど…

そんなことを考えている間に、もう町の中に入っていた

フィル「あ、おじさん。ソフトクリーム一つ頂戴。」

おじさん「あいよ。」

私は近くにあるソフトクリーム販売店に駆け寄ると

バニラ味のソフトを一つ買った

それにしても、人間製のソフトは凄く美味しい

魔物製のソフトとは、比べ物にならない美味しさだ

甘さも良し、コーンも美味し、形は綺麗な形

魔物もみらなつて欲しいものだ。

そんな時、ある噂が耳に入った。

少年2「ただの噂でしょう。本当に行く気ですか？」  
少女1「お化けがいるんでしょ？なんか怖そう……」  
少年3「本当だって！ すでに行方不明者が出ていて…大きな化け物に食われたって噂だ。」  
少年1「行ってみようぜ！ 場所は？」  
少年2「確か、ここからもっと北に進んだ所に大きな館があると聞きました。」

北に大きな館か…フォールド城が陥落して一段落付いたら  
友達のレン、ユウ、ルナを連れて探検してみよう  
そんなことを思いながら私はベンチに座り  
先にコーンをバリバリと食べ始めた  
やっぱりコーンと一緒に食べるのも良いが、  
クリームの部分だけで食べるも悪くないと思っている  
邪道だとか言う人もいるけども、これが私流の食べ方だ  
うん、これが正しいんだ。

ソフトもコーンギリギリ・ソフトドロドロに差し掛かった時だった  
ライラ「ゴオオオラアアア！！ フィルウウ！！！」

遂に奴が来た。  
私の上官であり、私の部隊長でもあるライラだ  
全身漆黒の鎧を被っているのですぐに分かる  
それよりも…なんで私の居場所が分かったの？！

ライラ「訓練サボって、お前は何してるんだああ！！！」  
フィル「な、何って……ソフトを……」  
ライラ「没収！！ 邪道な食べ方をして！！ ソフトは没収だ！！」  
フィル「あ、……！！ クリームの部分楽しみにしてたのに！！！」

モグモグとクリームはライラ隊長の中に消えていった

ライラ「ふむ…クリームだけでも美味しいな…」

フィル「あああ…10ギルがあ…」

ライラ「さて、と…少し腹も膨れたし、帰るぞ。逃げてても無駄だ。

」

フィル「痛っ！！いつの間にロープで縛ったの!？」

ライラ「いつだろうなあ？悪い犬は少し躰が必要なようだな…」

えっ？ ちよつと、何その皮の鞭…

私そんな趣味無いんだけど!？」

ライラ「ふっふっふっふっ…さて、帰ろうか？ 仔犬ちゃん？

？」

フィル「嫌、あー…」

その後、私が鞭で叩かれ

ヒイヒイ言いながら、足腰が立たなくなるまで

訓練と躰を体に染み込ませられた。

フィル「う、あー…」

私が学生寮に帰れたのは

夜の20:00を過ぎていた

奥からエプロン姿のアヌビスのユウが食事を運んできた

女のアヌビスって…何処か萌えるよね？

ユウ「随分と扱かれたみたいだな。大丈夫か？」

今日の晩御飯は またチャーハンのようだ  
キレイな ネギと玉葱が山というほど乗せられていた  
これ絶対に、訓練をサボった事に対する嫌がらせだろう…  
私はそう確信した。

フィル「ねえ……このチャーハン赤いんだけど…?」

ユウ「ケチャップ混ぜたからな。」

フィル「にしては………涙の出る匂いが…」

ユウ「玉葱が入っているからな。」

嘘だコレ。

絶対にケチャップの代わりにタバスコが叩き込んである。

唐辛子も刺さってるし……

ユウ「要らないなら、片付けるが?」

フィル「要ります! 食べます!! ……いただきます…。」

フィル「辛いいいいいいいいいいいい!!!!!!!!」

私の絶叫が本部全体に響き

その後、笑いものにされた事は言うまでもない

レン「やったよ! フォールド城、陥落!! 私達の勝利だよ!!」

頭上でセイレーンのレンがメガホン片手に

勝利宣言を通告していた

ハッキリ言つと、五月蠅い。分かったから、早く降りてこい

この能天気アホウドリ。極太のネギ その口に突っ込んでやるから  
早く降りてきやがれ。

ライラ「ふう……予定通り防衛戦はなかったな。

無駄な戦死者は無かったからよしとするか。」

全然、『よし』じゃないよ！

予想出来たなら、あんな訓練 要らないじゃないか！！

ライラ「……？ フィル、何処か不満そうだな？ 暴れ足りなかったか？」

フィル「い、いえ……べ、別に……」

ライラ「そうか？ 折角、私がお前と戦闘相手になってやるつもりなのに……」

うわぁ……命が幾つあっても足りやしない……

いつもの行動班で、セリシア戦闘教官に立ち向かうのよりも辛いよ……絶対に

フィル「でさ、3人とも明日から……暇？」

ユウ「ん？ ああ、暇だが？」

レン「コンサートも無いし、暇だよー！！」

ルナ「……………暇です。」

フィル「ならば、怪物が出ることで有名っぽい館に行かない？」

無事、戦争も終わり4時間後

私は3人に昨日聞いた館の事を話した

レン「何それ！！ 面白そうだね！！！ 行く行くうー！！」

ユウ「そうだな……寮内でゴロゴロしているもの嫌だからな……………行くう。」

レン「ルナちゃんは?!?!」

ルナ「……………皆が……………行くなら……………」

ユウ「で? その館は何処にあるんだ…………?」

ユウが伊達メガネを外し、本をパタンと閉じた

フィル「へ?」

ユウ「場所が分からないと、行くところも行けないだろう?」

レン「何ー? 忘れちゃったのー???」

何処…………? 北だっけ? 南だっけ?

……………。

▮

ええい……………ままよ!!

フィル「た、確か! 南の館だよ!! ソウ、ミナミノ ヤカタ

ダヨ!!」

レン「フィルちゃんカタコトになってるー!! 面白い!!」

ユウ「レン、五月蠅い 静かにしろ。じゃあ、準備して明日行ってみよう。」

ルナ「……………。」

どうか、南の館で合ってますように…………

レン「うわぁ 本当に こんな場所あったんだね」

レンが大きな声で楽しそうに  
館を見上げていた。

明るい事は 良いことだが…………

やはり少し五月蠅い……

ユウ「てっきり、単なるフィルの聞き間違えと思ったが……本当にあるとは……」

……ユウ……それって

私の事、疑っていたの？

レン「この古い感じが、如何にも『怪物居ます危険！』見たいな感じだね〜」

本当に五月蠅い

少し、殴って黙らせようか……？

ルナ「………フィル……？」

フィル「……？ どうしたの？」

チヨイチヨイと服の袖をルナが

私の影に隠れながら引つ張ってきた

何処か震えているようにも見える……

ルナ「………やっぱり……探検止めない？ ……何か変だよ此処……」

確かルナって臆病な性格な上に

実霊が見えたりする体質だった様な……

レン「え〜？ 折角来んだし、見るだけで帰るなんて止めようよ〜」

ユウ「此処に来るのに5時間も掛かったしな。」

二人は入る気 満々の様だ。

レンは もう既に玄関の取っ手に手をかけ  
玄関扉を開けた……………時だった

ルナ「ひうつ……………！！！」ビクッ

ルナが私の後ろで思いつきり  
身を縮こませた。

本格的に震えている…ここまで怯えているのを見るのは  
今回が初めてだ

レン「一番乗りレン、行つきまーす」

ユウ「ルナ、外で待ってても良いぞ。」

フィル「そうだね。怖いなら、外で待っ」

ルナ「私も行く！！！」

震えつつ、ルナも私の影から  
飛び出てきた

何か…………ルナが怯えるような  
恐ろしい事が 起きなきゃ良いけど…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8819z/>

---

魔鬼 改

2011年12月28日23時51分発行